

機関番号：16401

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20730092

研究課題名（和文）

地方議会選挙における党派性の決定要因

研究課題名（英文）

Determinants of party-centered campaigns in local assembly elections

研究代表者

上神 貴佳（UEKAMI TAKAYOSHI）

高知大学・教育研究部人文社会科学系・准教授

研究者番号：30376628

研究成果の概要（和文）：

本研究では「なぜ基礎自治体の議会議員選挙では無所属候補者が多いのか」「政党の存在理由とは何か」という問いに答えるため、「当選に必要な票数が大きく（小さく）なるほど、候補者の個人的な集票努力では動員が困難（容易）となり、政党のラベルに頼る必要が生じる（なくなる）」という仮説の検証を行った。具体的には、東京都墨田区議会議員を対象とする事例研究や東京23区議会の選挙結果を収録したデータ・セットの分析、さらに「市町村合併による選挙区規模の拡大」に注目し、該当する全ての自治体の選挙を対象とするデータ・セットの整備を行い、検証した。その結果、本研究の仮説は概ね肯定的な結果を得た。

研究成果の概要（英文）：

This research examines whether candidates are more likely to declare affiliation with parties as the population size of districts increases and the importance of party labels for mobilization grows. By interviewing with Sumida ward assembly members and analyzing results of municipal assembly elections, this research confirms the effect of population size on the party affiliation.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：選挙研究、地方議会、政党、アンケート調査、オーラル・ヒストリー

1. 研究開始当初の背景

近年の政党論において最も注目すべき著作の一つである『なぜ政党か』において、オルドリッチはアメリカにおける政党形成の歴史的な展開を事例に、社会選択問題や集合行為問題の解決策としての政党の必要性をマイクロ・レベルから解明した。代議制民主主義において自明と見なされがちである政党の存在意義を明示的に説明したことの貢献は大きい。

しかし、本研究が課題とする日本の地方議会議員選挙においては、周知の通り、無所属候補者が多く、政党の存在は自明ではない。しかも、市区町村について見ると、党派性の程度には大きな違いがある。

そこで、本研究は市区町村議会の選挙において候補者が政党を名乗るか否かの意思決定に影響を及ぼす要因を明らかにする。この要因を探ることにより、『なぜ政党か』という問いに対する新しい答えを見付けることができるのではないかと考えたのが、本研究を着想するに至った主要な動機である。

2. 研究の目的

本研究は上記の問題意識と理論的な考察を踏まえ、導き出された仮説を検証することを目指した。この問いに答えるため、当初の研究計画では、二つのアプローチを提示した。

まず、人口規模と地方議会の党派化には関係があるという説明である。具体的には「当選に必要な票数が大きくなるほど、候補者の個人的な集票努力では動員が困難となり、政党のラベルに頼る必要が生じる」という仮説である。

この問題に対するもう一つのアプローチは、大選挙区制における棲み分けという説明である。「選挙区定数が大きくなるほど、同一の政党を支持する候補者が複数立候補するため、政党のラベルによって候補者間の識別ができず、政党ラベルの必要性が小さくなる」という仮説に置き換えることができる。

当初の計画では、どちらの要因が効いているのか、検証することも目的に含まれていた。しかし、最終的には、この二つのアプローチを同時に扱うことは難しいので、人口規模と党派制の関係（前者）に焦点を絞ることになった。後者の検証については、今後の課題としたい。

3. 研究の方法

本研究は下記の三つの調査、分析から構成されている。それぞれについて、説明する。

i 墨田区議会議員の調査（2009年1月実施）

- ・議員に対するアンケート調査（悉皆調査）
- ・議員に対するインタビュー調査（議長、会派代表、その他をサンプリング）

ii 東京都区議会議員選挙の分析

1991年から2007年までの全区議会議員選挙の結果をデータ・ベース化し、計量分析を行った。

iii 市町村合併の効果に関する分析

1997年から2010年までの期間において、合併を経験した自治体議会の選挙結果をデータ・ベース化し、計量分析を行った。

4. 研究成果

本研究の三つの調査の成果は下記の通りである。

i 墨田区議会議員調査（2009年1月実施）

アンケート

- ・回収率 81.3%
- ・政党所属への意識、政治活動や選挙の実態、政策選好等を明らかにした。
- ・特に政党所属の理由として、「理念への共感」を挙げる回答者の多さが目立った（無所属が多い釜石市議会議員調査（2006年実施）とは大きな違いがあることを発見した）。

インタビューの対象者

- ・西原文隆氏：自民、議会議長
- ・木内 清氏：自民
- ・田中 哲氏：民主、会派幹事長
- ・阿部喜見子氏：会派を離脱した民主
- ・加納 進氏：公明、会派幹事長
- ・高柳東彦氏：共産、会派幹事長
- ・江木義昭氏：無所属

インタビューの結果、「規模と政党所属」の関係については、仮説通り、自らの集票ネットワークでは到達できない有権者への働きかけを可能にするものとして、政党所属が

捉えられていることを確認できた（詳しくは、公刊予定のアンケート結果やインタビューを参照されたい）。

ii 東京都の区議会議員選挙の分析

研究の対象を区議選に絞り、当選するために必要な票数に注目して分析した。

その数が小さい選挙では無所属の当選者の占める割合が高くなり（千代田区）、その数が多い選挙では低くなる（世田谷区）。その理由は、前者においては敢えて政党を名乗らずとも、自らの社会的なネットワークを通じて必要な票数を獲得できるのに対して、後者においては政党のラベルを通じて有権者の動員を図る必要が生じるためである。

検証の結果、上記の仮説は概ね支持された。政党所属を従属変数とするプロビット分析によると、鍵変数である最小当選得票数（前回選挙）の係数は予想通り負であり、当選に必要な票数が大きいほど、政党所属を名乗らないという結果が示されることとなった。

なお、この分析の結果は 2009 年度の日本政治学会において発表された（詳しい検証の手続きと結果については、報告論文を参照されたい）。

iii 市町村合併の効果に関する分析

本研究の仮説をさらに精密に検証するため、合併を経験し、規模が拡大した自治体を新たに対象とすることにした。選挙区の属性など、政治的、社会経済的な背景の違いをコントロールできる、最も有効な方法と考えられるからである。データの収集と整理は膨大な作業となったため、松林哲也氏、上田路子氏との共同作業を行った。

回帰分析による検証の結果、一議席当たりの票数が増えると、自治体単位の分析では、無所属候補者が減少するという効果を、候補者単位の分析では、党派への所属を選択するという効果をそれぞれ確認できた。現段階では大まかな傾向を明らかにしたに過ぎないが、合併の効果を検出することはできた。分析のさらなる精緻化を目指したい。

なお、この分析の結果は 2010 年度の日本政治学会、2011 年の Midwest Political Science Association の年次大会において発表された（詳しい検証の手続きと結果については、報告論文を参照されたい）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計 3 件）

- ① Matsubayashi, Tetsuya, Michiko Ueda and Takayoshi Uekami. “The Size of Electoral Districts and the Importance of Party Labels.” Presented at the Annual National Conference of Midwest Political Science Association (2011/4/1, Chicago USA)
- ② 上神貴佳・上田路子「選挙区規模と党派性——市町村合併を伴う地方議会選挙データによる検証」日本政治学会報告(2010年10月11日、中京大学).
- ③ 上神貴佳「なぜ政党は必要か——代議制民主主義の規模と政党」日本政治学会報告(2009年10月11日、日本大学)

〔その他〕（計 3 件）

オーラル・ヒストリー

校正済みのものは下記三点である（本報告書の執筆時点）。

- ① 上神貴佳. 2010. 「2009 年墨田区議会議員調査 No.3——高柳東彦議員インタビュー記録」未刊行記録.
- ② 上神貴佳. 2009. 「2009 年墨田区議会議員調査 No.2——西原文隆議長インタビュー記録」未刊行記録.
- ③ 上神貴佳. 2009. 「2009 年墨田区議会議員調査 No.1——江木義昭議員インタビュー記録」未刊行記録.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上神 貴佳 (UEKAMI TAKAYOSHI)

高知大学・教育研究部人文社会科学系・准
教授

研究者番号：30376628

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし